



外國考生 ▶

從學習布農語到考取族語認證的歷程

ブヌン語學習から民族言語認定取得まで

From Learning the Bunun Language to Passing the Accreditation Test of Aboriginal Language Proficiency

文・圖 | ISHIGAKI Naoki 石垣 直 (沖繩國際大學綜合文化學部副教授)

私がブヌン語の族語認証試験を受験しようと思ったのは、「言語を知らずして他者の社会・文化を理解することはできない」という基本的な考え方をもっていただけです。

原住民族語學習の理由

私は大学院の修士課程に入学した1999年からブヌンの諸村落で社会・文化人類学的な調査研究を実施してきました。修士課程では、かれらの親族、婚姻、クラン制度について、博士課程では土地制度、ルーツ探し活動、地図作成運動などを研究してきました。とくに2003年から2005年にかけて長期のフィールドワークを行ったのですが、その時に「どうしても最低限のブヌン語を習得する必要がある」と考え、ブヌン語の族語認証試験を受験しました。

諸ツールを利用し実力を高める

受験対策としては、政治大学原住民族研究センターなどが公にしている問題集や過去問に取り組みました。また、小学校の郷土教室で用いられているブヌン語教科書も基礎を固めるうえでとても役に立ちました。その他、簡易のブヌン語教科書や語彙構造分析書なども頻繁に参照しました。それ以外にも、ブヌン語の音楽を聴いたり、キリスト教会での礼拝でメモを取った

我之所以參加布農語認證考試的想法與動機，其實很簡單，這個想法就是「如果想要深入瞭解一個民族的社會與文化，就要從認識該族的語言開始。」

原住民族語學習的緣起

1999年本人就讀東京都立大學研究所碩士班，在那同時便開始於布農族部落中展開社會及文化人類學之田野調查。研究內容大致為布農族親屬、婚姻、氏族制度等，爾後到了博士班，緊接開始研究布農族土地制度的變遷、尋根之旅活動、部落地圖調查等等。2003年欲開始長期性田野調查之時，心裡明確地認為「不學習布農語，就沒辦法說自己瞭解布農文化」，因而決定報考族語認證。

善用資源 累積實力

為了準備布農語考試，我參考了政治大學原住民族研究中心所出版的練習題與考古題。另外，為了能有效率地學習布農語，我常常利用小學的布農語課本、布農族或非布農族的語言學者出版的布農語課本及語彙結構分析書等等。除此之外，我還進一步聽布農語相關音樂，參加基督教與天主教的主日禮拜時也會翻閱布農語聖詩本及布農語聖經做參考及記錄，這些對我在理解布農語的整體結構上有非常大



開始長期性田野調查之時，心裡明確地認為「不學習布農語，就沒辦法說自己瞭解布農文化」，因而決定報考族語認證。

「想要深入瞭解一個民族，就要從認識該族的語言開始」，是我報考族語認證的動機。為了有效率地學習布農語，我經常利用布農語課本和語法書等參考資源。此外，布農語音樂、布農語聖詩本及布農語聖經，對於族語學習也相當有幫助。



りしたことも、とても助けになりました。努力の甲斐があり、2004年11月にブヌン語イシブクン方言の族語認証試験に合格することができました。

弱点を知り努力を継続する

しかし、習得語彙数が少なかったり難しい表現形式に対する理解が不十分だったり、依然として自身の力不足を感じています。これまでの私の研究自体は博士論文の出版で一段落しましたが、ブヌンの社会・文化を少しでも深く理解するために、今後もブヌン語の勉強を継続していきたいと思います。

的幫助。有了這些資源及學習的累積，本人於2004年11月通過布農族「郡群布農語」的認證考試。

瞭解有限 仍須努力

現今的我對於布農語詞彙的瞭解還是有限，要完全以布農語明確地表達自己的想法，仍然有所差距，所以，對我來說還是有需要努力的空間。雖然2011年在日本出版了自己的博士論文——《現代台灣社會中的原住民：布農族的土地制度變遷與權利運動》之後，我的布農族研究即告一段落，但是，為了進一步理解布農族的社會與文化，我仍會繼續學習布農語。◆



學習布農語的參考書籍。



ISHIGAKI Naoki

石垣 直

沖繩人，日本國沖繩縣石垣市，1975年生。東京都立大學社會人類學博士。現任沖繩國際大學綜合文化學部副教授。主要研究領域為台灣原住民（布農族）的親屬與婚姻、尋根與部落地圖、土地制度變遷、原住民族權利與國家制度、國家認同等。已出版〈「部落地圖」調查之省思：以布農族之內本鹿

調查為例〉（《東台灣研究》10，2006，中文）、《現代台灣社會中的原住民：布農族的土地制度變遷與權利運動》（2011，風響社，日文）等作品。娶台東縣延平鄉的布農族為妻，育有一女一男。

